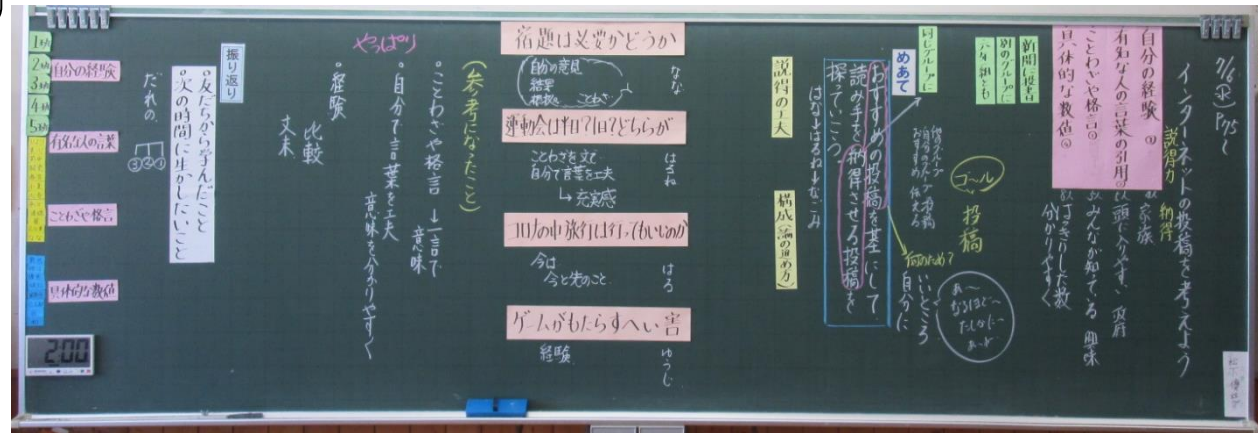
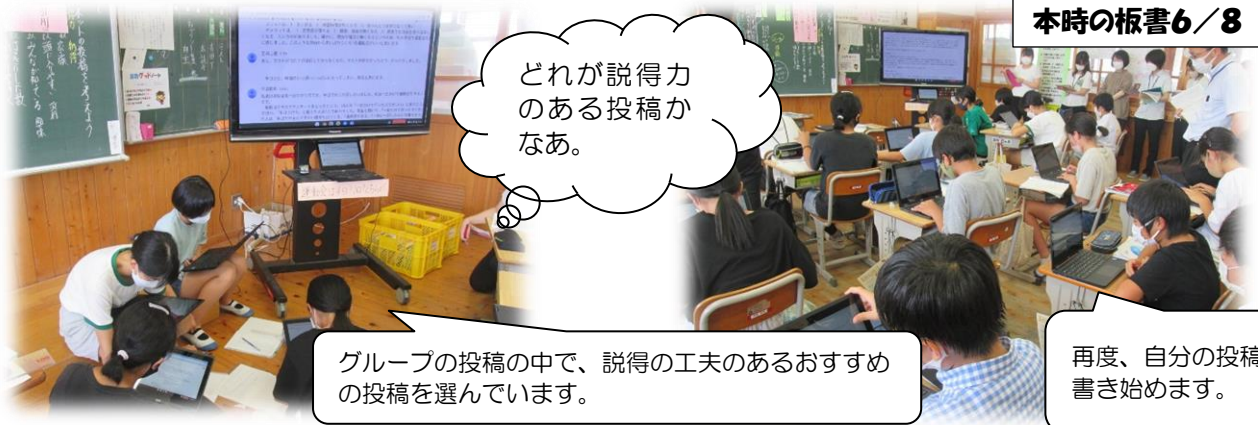


7月6日(水)は、大野先生による国語科の研究授業でした。本単元では、「自分の考えを読み手の心を動かすように説得の工夫を使って伝える」という単元ゴールを設定していました。本時は、6/8時間目です。友達の投稿から説得の工夫を読み取り、自分の投稿に生かせるように学習を進めました。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

単元名 「説得の工夫を使って読み手を納得させよう！」全8時間
教材名 「インターネットの投稿を読み比べよう」(東京書籍) 6年2組 大野 香奈 先生
本時の目標：自分が納得できた投稿を選択し、読み手を納得させるための工夫を考えることができる。
本時における見方・考え方：自分の意見に合う説得の工夫を選択したり、取り入れたいしよとしている。



本時の板書6/8



大野先生による授業のリフレクション

今回の授業では、子どもたちがそれぞれに目指したいゴールを選択できるようにしたこと、タブレットを活用して投稿をし合うこと、自分が興味のある投稿を選択できること等、初めての試みを取り入れて提案授業にしてみました。タブレットに関しては、これから使用する機会も多く、また、今回の単元では、投稿のルールも確認しながら、生活の中で問題になりやすいLINEの使い方にも関連させてもみました。言葉や説得の工夫にこだわりながら授業を進めてきましたが、対話では、今回は他のグループではなく自分のグループの中で深め広げていく方が効果的だったと反省しています。何のために対話をさせるのか、どんな内容で学びを深めさせていくのかについてはいつもこだわっていかなければならない課題です。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定**
 - 友達の投稿を比較しながら説得の工夫を説明する場面、互いの意見を聞き合う場面が効果的であった。
 - 導入やめあてをもとに、なぜおすすめてできるのか、こだわって考えさせていた。(児童の対話を見取る)
 - ▼グループの中で、2回目の投稿を本時の前に読み合っ、めあてにいくとよかった。
 - ▼「読むこと」の単元の中で、「読むこと」「書くこと」の時間をどの程度とるとよいのか。→児童の実態によって考えていく。
 - ▼構成(論の進め方)にもう少しふれるとよかった。視点を1つに絞ってもよかったのではないか。
- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫**
 - 単元構想がよかった。
 - ▼児童の生活に沿う身近なテーマ設定はよかったが、その反面、児童が客観的に立場を選択しにくいのではないか。→課題を絞る、反対意見を設定するなど。
 - 児童が単元ゴールとテーマを選択できることが、個別最適な学びにつながっていた。
 - 丁寧な導入により、学習の目的意識をもって学習に取り組んでいた。
 - ICTを活用し、実際に投稿していったことは、これからの生活とつながる。
- 3 「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立てや働きかけ**
 - 「なぜ」「例えば」等の問い返しが多く、それに応じて児童が言葉にこだわる姿勢が見られた。
 - ▼ことわざが分からない。(ことわざの意味や使い方等)→4年生での学習でおさえておく。
 - ▼説得の工夫に優劣がつけられない。
 - ▼本当に納得できるものを吟味できていたか、説得の工夫についてもう少しじっくり話させたかった。それぞれの意見を話し合うことで深まりにつなげたい。
 - (その他)
 - ICT活用するメリットを考えておくことが必要である。→共有する、比較する、すぐに確認できる、個別最適な学習ができる等、効果的な活用を探っていく。

大野先生の授業では、発問や問い返しによって学習活動の目的を明確にし、子ども達の活動や対話の様子を見取って修正しながら本時の目標に向けて学習を進められていました。これからの授業づくりにおいて、子ども達が対話を通して学び深めていくにはどのようにするとよいのか、対話の充実を図るための手立てを考えていきましょう。

<研究授業からの学びをもとに、今後も大事にしていきたいこと>

- 育成すべき資質・能力と見方・考え方(言葉へのこだわり)の明確化
- 様々なツールの効果的な活用(ICTや付箋など)
- 発問や問い返しの工夫
- 対話の充実
- 児童が主体的に向かう課題設定
- 個別最適な学びと協働的な学び

1学期の研究授業、日常の授業を振り返り、2学期の授業づくりも頑張っていきましょう!